

## デイサービスセンターふれあい館

デイサービスセンターふれあい館は主に認知症の方を中心にご利用していただくデイサービスです。住み慣れた家・場所・地域で継続した生活を送るための支援を行い、ご家族と共に過ごすお手伝いをしています。

ご利用者様に落ち着いて過ごしていただけるように館内は家庭的な雰囲気となっており、少人数のご利用者様に職員が個別に寄り添いその人らしさを大切にされたケアを行っています。またご家族の方には介護負担の軽減を目的として日中にゆっくりとした休養を取って頂けるよう、夕食を食べて帰るサービスを行っています。

日中の活動としましては、地域との交流を大切に、外部奉仕やボランティアの方、園内の保育事業所の園児たちとの交流を行っています。これからもご利用者とご家族をひとつとして、あたたかく包み込むようなケアに職員一同努めていきたいと思っております。



花見の行事の風景



園内の保育事業所の園児たちとの交流を行っています。これからもご利用者とご家族をひとつとして、あたたかく包み込むようなケアに職員一同努めていきたいと思っております。



スタッフです

## デイサービスセンター北堀川

いずみの園デイサービスセンター北堀川は2012年4月に開所しました。閑静な北堀川町の民家を改修し、小規模型の通所介護事業を行っています。

2006年5月より中津市の委託事業「中津市高齢者生きがい活動支援通所事業」(生きがいデイ)を開設し、介護保険非該当(自立)で、独居、もしくは日中独居の方がご利用されてきました。現在は、通所介護の事業を開始したことにより、自立の方や要介護状態の方もご利用され、皆様と一緒にゲームをしたりして笑顔で過ごされております。

月曜日から金曜日まで営業しており、職員6名でご利用者の方のケアを行っています。定員15名の少人数の通所介護であるため、家庭的な雰囲気の中で、それぞれのペースで過ごして頂いています。下肢筋力訓練機器で機能訓練を実施したり、機能訓練指導員によるマッサージや個々のニーズに合わせたアクティビティメニューを行っています。見学、体験利用など随時受け付けております。お気軽にご連絡ください。職員一同心よりお待ちしております。



ゲーム中の様子



スタッフです

## 看護師の活動について



看護課 主任 尾形 孝世

特別養護老人ホームにおける看護師の在り方  
いずみの園には多くの看護師が勤務しています。私の担当する特別養護老人ホームでは、急性期病院とは異なった生活場での看護が求められます。ご利用者やご家族が安心・安全で暮らせる場所として看護師の役割は数多くあると思います。ご利用者の健康管理と健康維持、異常の早期発見とその対応などを行っており、またアセスメント(評価)は非常に重要であり、施設看護師に要求される1つのポイントです。ご利用者の生活特性に合わせた看護をすることにより、ご利用者のQOL(クオリティ・オブ・ライフ…生活の質)は大きく変わってきます。

介護スタッフや他の医療従事者、相談員、ご家族の方との連携を図っています。特に異常の早期発見のために、介護スタッフへは助言も行い、ご利用者のより良い生活の場の提供を目指しています。

いずみの園を最期の生活の場として選られたご利用者・ご家族の気持ちをご大切に、その方へ、尊敬ある心の温まる支援をすることが私の使命だと感じています。

自己満足せず、怠らず、初心の気持ちで常に持つ必要とされる看護師を日々目指しています。



血圧測定の様子



# ボランティア紹介

## 〈第3回〉

### ① 大正琴の演奏ボランティア

大正琴 琴好会

川端ミヨ子様

大正琴の音色に魅了され習い始めて10余年たちました。初めは自分の趣味と思いで弾いていました。慣れるにつれ発表会、季節の行事の演奏会に出る様になっていったところ、縁があり、いずみの園訪問の輪に入れて頂く様になりました。7、8年経つてでしょうか。訪問すれば練習もしなくてはなりません。指の運動が出来、また励みになります。8名の仲間の和も深まりました。ありがたいことだと思えます。

先生はご利用者の皆さんがどんな曲がお好きか、喜ばれるか選曲に苦慮されていますが、昔懐かしい曲を弾き皆さんに歌って頂けるのは嬉しいことです。歌声を耳にするのも私達も微笑みが浮かびます。微力ですが今まで生きて来れたお返しが少ないながらも出来る様、身体が動く限り参加させて頂きたいと思えます。



川端様（後列左）と琴好会の皆さん

先日のボランティア交流会でサポートセンター主任さんの海外研修報告を聞かせて頂いたこと、園の中広い行事、活動を知り感動しました。社会福祉貢献の姿、素晴らしいです。ありがとうございます。

### ② いきいきアワー文化講演会

大幡郷土史の会

秋吉 秀康様

私は郷土に残されている伝承口碑や昔話をさせていたただいています。

昔々の事、聖愛ホームのすぐ近くの村に源義経が来て、薬師如来像を残していきました。その隣村には黒田官兵衛の大軍が押し寄せ、村中を焼き払いました。村人たちはこのことをずうーと覚えていて、今も、その場所を「田櫓」と言います。

「田櫓」とは火矢を打ち出す櫓のことです。もつと昔黒水に和氣清麻呂公がお泊りになりました。その時、村の老婆が「黒豆」を差し上げました。公は喜びになり、老婆に「黒豆御前」と名前をお与えになりました。黒水村の名前の由来です。時に、おばあちゃんが少女のような眼をして頷いてくれます。私は思わず目頭がジーンとなります。隣の歴史をお話しながら、私の方が皆さんに力を与えて頂いています。これからもよろしくお願ひします。



聖愛ホームでの講演会の様子



## LSAの活動について



在宅支援サービス事業部

シルバーハウジング生活援助員

戸次 広美

LSA(生活援助員)・ライフサポートアドバイザーは登録住宅等に居住している高齢者に対して、必要に応じて日常の生活指導、安否確認、緊急時における連絡時のサービスを行います。

シルバーハウジング対象者10世帯11名の在宅者を午前中訪問して安否(健康)確認、生活指導・相談、一時的な家事援助を行います。午後は午前中不在の対象者宅を訪問して体調確認を行います。夕方、当日不在の対象者に電話で健康確認しています。

日々の見守りと共に入居者の急病等の緊急時通報システムによる装置の通報には24時間いつでも早急にかかけつけ対応します。安心して生活できる環境をお届けできるように入居者の方々との信頼関係を築くことにも努めています。

また、団地内のコミュニティ醸成として毎月1回健康教室を開催し、団地居住の高齢者宅を訪問して参加を呼びかけLSAの存在や仕事を紹介し、介護や困り事等の相談に気軽にお出で頂けるようお誘いしています。

自治会長はじめ役員の方々、民生委員の協力を頂き団地居住高齢者の生活を微力ながら支援しています。



健康教室の様子



# 園内の花木を探索

いずみの園の敷地内にはたくさんのお花が植樹されています。この花木をシリーズで紹介いたします。

## ● 楠 (たぶ)

クリニックいずみの前の道路に面したところに2本の大きな「楠」の木があります。

楠はクスノキ科タブノキ属の常緑高木でシイ・カシとともに照葉樹林の代表樹です。沿海地に多く、大木は30mにもなるそうです。

昔から霊が宿る木とされていたことから、「霊(たま)の木」と呼ばれ、それがしだいに「たまのき」→「たぶのき」に変化していった、との説もあるようです。



人には必ず一つは「マイソング」があるということを開きました。例えばそれは我が青春の歌のようなものです。フランク永井ですか、低音の魅力ですね。ユーミン？もう十分おばさん世代ですよ。皆さんにとって青春の歌は何でしょうか？

私達は過ぎ去ったことを時には何かのはずみでありありと思い出したり、絵巻物のように当時の景色を思い出したり致します。またその時、当時は全く分からなかったものが見えてきたりします。

3月の最後の日曜日はイースター(復活日)でした。死んだイエスが復活したことをお祝いします。イースターはイエス存命中は分からなかったことが、亡くなったからその意味がはっきりと分かり見えるようになった、という出来事です。

星野富弘『風の旅』

# チャブレン通信



堤 健生

「過去の苦しみが後になって楽しく思い出せるように、人の心には仕掛けがしてあるようです」

## いずみの園ホームヘルパーステーションと2年目を迎える定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスについて

いずみの園 訪問介護課 課長 山本さつき



定期巡回・随時対応型訪問介護看護のスタッフ

今後も地域の皆様により良いサービス提供ができますように、研鑽して参ります。

いずみの園ホームヘルパーステーションは1990年(平成2年)9月に開設し、23年目を迎えました。当園の基本理念であります「神と人とに仕えるキリスト教の愛と奉仕の精神」を基にご利用者の在宅生活を支えています。非常勤ヘルパー74名・常勤スタッフ11名の計85名で、24時間・365日のサービス提供を行い、地域の皆様に信頼や安心感を頂けるヘルパーステーションを目指しています。

高齢化・少子化による在宅サービス強化のため、地域において包括的に継続的に繋いでいく仕組みの1つがこの定期巡回サービスです。

このサービスは4つのサービスを組み合わせ、切れ目のないサービスをご利用できます。

その1. 利用者の状況を判断して訪問介護員が1日複数巡回型で定期訪問をします。

その2. 通報を受けたオペレーターは相談助言や緊急訪問の必要性を判断します。

その3. 随時対応の判断で訪問介護員や看護師が訪問し場合により医療機関と連携します。

その4. 医師の指示書を基に訪問看護師が訪問し、日常の療養の世話や助言を24時間365日行います。

現在ご利用者33名、平均介護度2.5。1日1回訪問から4回訪問の方まで、訪問看護師や介護支援専門員と状況判断を行いケア内容や回数を決定します。

1日3回の食事摂取・バランスの良い食事・定期的な服薬・排泄・安否確認等、看護師のアドバイスを頂ながら支援し、体調の変化を早期に見出すことや緊急時の対応等、訪問看護師との連携により、入院の回数が少なくなり健康的な日常生活の継続ができています。ご利用者、家族の方から「安心して、在宅生活を過ごせます」と喜びの声が多く聞こえてくるサービスです。



## 編/集/後/記

### ×ジロの眼

「望」  
当園の設立精神は「信・望・愛」である。「信」は当法人設立の礎である。「信仰」、「愛」はキリストの「愛」であるが、「望」は人が立つて満月を仰ぎ見るといふ象形文字である。

キリスト教主義社会福祉事業の先達者の阿部志郎先生は「福祉の哲学」という著書で「何もできなくても悲しみを分かち合うのが福祉で、働く者の必須の条件であるが、そこに一筋の明るい光を見出すことが「望」だ」と述べている。

「望みは何かと訊かれれば」(小池真理子著)という小説があるが、幸福は平凡で身近にあると説く。

×ジロは日々の生活を生きるのに一所懸命だが、木陰で月の光を受けてどんな夢を見ているのだろうか。

## いずみの園シャトルバス 無料運行開始

4月8日より、毎週月・水・金曜日はいずみの園を9:30発、11:00発、13:30発、15:00発の1日4便、いずみの園→いずみの森→イオン三光→中津駅→ゆめタウン中津→中津市民病院→いずみの園間を、約1時間で循環運行しています。

聖愛ホームや、いずみの森のご利用者など毎回10名前後の方が利用され、好評をいただいています。また、いずみの園への面会や見学の際にもご利用いただけます。

詳しくは0979-23-1616管理課までお問合せください。

2013年度の入職式  
2013年4月1日(月)、2013年度の辞令交付式が「いずみの園」で行われ、今年度4月の新任職員8名に、富永理事長より辞令が手渡されました。

いずみの園の職員数はこれで346名となりました。(経営企画室)



富永理事長と新任職員



## ワークセンター シャローム開所式



ワークセンター シャロームの菜園



開所式の様子

2013年(平成25年)3月29日(金)、「ワークセンターシャローム」にて、牧師である堤チャブレン司式により、開所式が執り行われました。大分県の指定を受けた多機能型事業所が2013年4月1日から、障がい者就労継続支援A型及びB型の事業を開始致します。

開所式には中津市中尾社会福祉課長はじめ市内就労系事業所の責任者の方、支援学校の進路担当の先生など来賓及び利用者のご家族の方をはじめ、法人役員の方などの参列を頂きました。

当法人富永理事長の挨拶で、「シャロームと命名したのは、ヘブライ語で平和を意味し、平和があなただ方にあるようにと使われています。平和で生きがいを持って暮らしていける事業所にしたい」との思いが語られました。



食堂の十字菜と「シャローム」のレリーフ

こうして新たにスタートする「ワークセンターシャローム」ですが、各自の特性を理解し、認め合うことができるよう信頼関係を築きながら取り組んで参ります。

障がいサービス部門(障がいサービス事業部)就労支援事業課・障害者生活支援センター「エマオ」も同部相談支援課として(再編)1年目をあたたかい目で応援して頂きたいと思っております。よろしくお願致します。シャローム!(障がいサービス事業部)

## 「平成24年度全国個室ユニット型施設推進協議会(以下推進協) 南部九州ブロック地域ネットワーク形成会・研修会」が行われました



新貝正勝中津市長



衛藤晟一首相補佐官

本年2月23日(土)10:00より、当園地域交流ホール「いずみ館」において、一般社団法人全室ユニット型施設推進協議会が主催する形成会・研修会が行われ、「地域包括ケアシステムにおける個室ユニット型施設の果たす役割」を研修テーマに本部、講師を含め120名が参加しました。

午前中はネットワーク形成会が行われ、全国推進協会田伏代表及び開催支部長当法人富永理事長の挨拶の後、推進協本部より「個室ユニット型施設の役割」と題し報告がありました。その後2施設によりユニットケアの事例発表とその役割における討議がありました。

午後はネットワーク研修会が行われ、まず、新貝正勝中津市長のご挨拶があり、続いて「社会保障制度のこれから」と題し、衛藤晟一内閣総理大臣補佐官より特別講演がありました。

次に、「社会保障と地域包括ケアシステムについて」と題し、鯨井佳則厚生労働省大臣官房参事官より基調報告がありました。

その後、「いずみの園地域包括ケアの取組」としていずみの園の職員3名により、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業」、「小規模多機能型居宅介護事業」、「障がい事業から共生型事業へ」の報告が行われ、最後に当法人富永理事長によるまとめが行われ、研修会が終了しました。

よりよい特養づくりと2025年に完成を目指す地域包括ケアシステムについて、参加者から「地域との交流の仕方に苦悩していたことがあったため、ヒントをもらった」などの声があり、有意義な研修会となりました。(経営企画室)



富永理事長と発表者によるまとめ



手付かずのままの、3階まで被害のあった建物



未だ造成中の被災地

2月19日(火)から21日(木)にかけて行われた、大分県社会福祉施設経営者協議会の東日本大震災被災施設視察(11法人18名と事務局1名の計19名が参加)に参加しました。

この視察は、大分県でも今回の大地震を期に見直された東南海・南海地震による地震、津波の被害想定は、過去の予想を遙かに超えており、この被害想定に鑑み、施設においても十分な災害対応の必要があるため、東日本大震災で被災した施設への訪問により、施設における早期の災害対応へ役立てるために行われたものです。

今回は津波の甚大な被害のあった宮城県名取市の特養「うらやす」の視察と、宮城県気仙沼市のケアハウス「ソレイユの丘」、岩手県陸前高田市の特養「高寿園」へ訪問、最後に東北厚生局と情報交換を行い、被災地の現状と被害の大きさを目の当たりにしました。

常日頃の防災訓練の重要性を再認識したものです。



経営企画室 課長 末延 政光

## 大分県福祉施設経営者協議会 東日本大震災施設見学に参加